

安心・安全・快適な交通を確保する道路整備等の推進計画 (事業区分: 道路(橋梁補修・災害防除・舗装等))

1. 長野県の現状と課題

【現状】

長野県は、面積が13,500km²全国第4位と広く、また、道路は47,000km全国5位と管理延長が長い。更に、山間部を通過する道路が多く、橋梁・法面対策等大規模な道路構造物が多い。(県・市町村管理数計: 橋梁21,000橋 全国第4位、トンネル310箇所 全国第4位) また、長野県が管理する橋梁は、建設後50年を経過するものが平成19年4月現在15%、10年後には46%と急速に老朽化が進むことから、適切な維持管理が求められている

【課題】

本県は山岳県であり、急峻な地形を通過する道路が多く、橋梁や落石危険箇所も多い。更に地質は、糸魚川静岡構造線と中央構造線が縦走し褶曲や断層によって複雑な様相を呈しており、落石災害等が多数発生している。このため、平成8・9年道路防災総点検結果の危険箇所の計画的な対策が課題となっている。

また、急速に老朽化が進む橋梁の計画的な修繕対策や、本県全域が積雪寒冷地であることから、冬期の凍結・融解により舗装の損傷が進みやすい舗装修繕対策が課題となっている。

2. 計画の目標

災害に強い交通ネットワークの確保と適切な道路管理を複合的にを行い、安全で快適な道路環境整備等を推進する

3. 事業の内容

【計画の期間】 平成21年度～平成25年度(5年間)

【事業実施主体】 長野県他75市町村

【計画の成果目標】

計画の成果目標	H21(現況値)	H25(目標値)
対象ルート上で安全に通行できる延長の割合	0%	100%
安全・安心・快適な交通を確保する道路整備を進める	0箇所	656箇所

※「対象ルート上で安全に通行できる延長」とは、平成21年度計画策定時の対象ルートである事業対象箇所上において、安全に通行を確保するために事業計画した延長を示しており、平成21年度現況値は事業未実施のため0%とし、平成25年度に100%を目指した成果目標としている。

【事業の主な内容】

基幹事業 : 橋梁補修工、舗装補修工、法面対策工、構造物補修工、トンネル修繕工、舗装工、消雪施設設置工、堆雪帯設置工、電線共同溝、

関連事業 : 砂防施設整備、地すべり防止施設整備

効果促進事業: 橋梁長寿命化修繕計画策定、基盤図整備、排水路整備、災害用機材購入、道路管理システム、積雪状況確認システム、道路ストック点検(トンネル、橋梁、舗装、法面、道路附属物)

【箇所数と事業費】

	県	市町村	計
基幹事業	466箇所232.4億円	310箇所75.7億円	776箇所308.1億円
関連社会資本整備事業	2箇所0.3億円	0箇所0億円	2箇所0.3億円
効果促進事業	0箇所0億円	138箇所9.1億円	138箇所9.1億円
計	468箇所232.7億円	448箇所84.8億円	916箇所317.5億円

※事業費は精算額としているため、整備計画の事業費とは合わない場合があります

4. 事後評価の結果

【目標値の達成状況】

計画の成果目標	H25(目標値)	H25(実績値)
対象ルート上で安全に通行できる延長の割合	100%	118%
安全・安心・快適な交通を確保する道路整備を進める	656箇所	776箇所

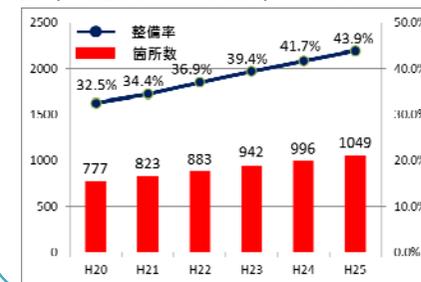
【主な工種の達成状況(県独自)】

	H21(計画値)	H25(実績値)
落石危険箇所 対策箇所数	135箇所	204箇所
橋梁補修 箇所数	331箇所	348箇所
舗装補修 箇所数	104箇所	137箇所

■事業効果の発現状況

§ 道路防災総点検で落石危険箇所(落石・崩壊、岩石崩壊)整備箇所が272箇所完了し、整備率が11.4%上昇

H20末 32.5% → H25末 43.9%



§ 「長野県橋梁長寿命化修繕計画(第1期 H20.6・第2期H25.6策定)に基づき、緊急性の高い橋梁から修繕を進め、健全化を図る
緊急に対応する修繕工事(ランクI)
115橋/118橋 完了(97.5%)[第1期]
34橋/264橋 完了(12.9%)[第2期]

長野県橋梁長寿命化修繕計画

(単位: 橋)

	緊急に対応する修繕工事 (概ね5年以内の対策橋梁数)	社会資本総合整備計画 (計画期間内実施橋梁数)
1期計画(H20～H24)	118	115
2期計画(H25～H29)	264	34
計	—	149

※県管理橋梁 3, 817橋(H26.3.31現在)

5. 評価と今後の方針

対策工法の見直し等によるコスト縮減を図り、補修工事等を実施し目標を上回った。

落石危険箇所の対策率の向上や、平成20年度に策定した長野県橋梁長寿命化修繕計画に基づく橋梁修繕事業、雪崩危険箇所対策の実施等、道路を利用する人たちの安全・安心・快適な交通の確保について、計画的に実施できている。

引き続き、道路法改正により義務化された橋梁やトンネル等の5年に1回の定期点検や、平成26年度までに策定した各種施設の長寿命化計画に基づき、ライフサイクルコストの縮減と維持管理費の平準化を図り、計画的に事業を実施していく。

整備効果事例

事例① 橋梁補修事業 (国)254号 上田市 南角大橋



★床版の損傷により、橋面舗装にポットホールが発生！車両の安全・快適な通行に支障

(H22交通センサス
交通量 9,533台/日
大型車混入率 18.8%)



★床版補修、防水工の設置、舗装の復旧により、通行車両の安全・快適を確保



事例② 災害防除事業 (主)阿南根羽線 阿南町 村界橋上



切り立った斜面から岩塊が張り出し、亀裂も確認され、いつ崩落するか不安…

張り出した岩塊は撤去し、さらに斜面上部からの落石は防護網で対応！通行車両の安全・安心を確保



整備効果事例

事例① 舗装補修事業 (主)下諏訪辰野線 岡谷市 成田町



経年劣化による路面破損！
走行性や交通の安全性、快
適性や沿道環境の阻害

舗装補修を実施！
円滑かつ安全な交通を確保



事例② 雪寒防雪事業 (一)白骨温泉線 松本市 白骨



雪崩の発生が多いことから、
冬期間は通行閉鎖！

雪崩箇所対策を実施！
安全な通行が確保されたこ
とから、冬期の通行閉鎖を
解除
白骨地区への安全・安心な
通行が1年を通じて可能に



整備効果事例

事例③ 無電柱化事業 (一) 旧軽井沢軽井沢(停)線 軽井沢町 新軽井沢



県内でも有数の観光地である
軽井沢の景観を電柱・電線が
阻害!

無電柱化を実施!
良好な景観を形成、歩行者・
自転車通行空間の確保により
観光振興に寄与
防災機能が向上